

かつお資源の持続的利用

政策提言先 水産庁

政策提言の要旨

- ◎ まき網漁業による漁獲が日本近海へのかつおの来遊、漁獲状況に与えている影響を明らかにするよう調査研究を行うことを提言いたします。
- ◎ 調査結果に基づき、かつお資源の持続的利用について、国内的・国際的に適切な対応を検討するよう提言いたします。

【政策提言の具体的内容】

- ・ 平成17年以降、本県の沿岸域のかつお漁獲量が著しく減少しており、この原因として、中西部太平洋海域での諸外国のまき網漁業による影響などが考えられます。
これらまき網漁業の漁獲が、本県沿岸域を含む日本近海へのかつおの来遊、漁獲状況に与える影響を明らかにするよう調査研究を行うことを提言いたします。
- ・ また、その調査結果に基づき、かつおの資源管理が必要な場合は、地域漁業管理機関での合意形成に基づく適切な資源管理を行うことを提言いたします。

【政策提言の理由】

- ・ 中西部太平洋海域のかつお資源水準は「高位」にあると言われていますが、日本周辺海域では、平成21年に漁獲量が著しく減少しました。
- ・ 同海域においては、1950年から2000年の50年間に、かつおの漁獲量が10万トンから120万トンまで大きく増加しており(2006年には150万トン、2007年には暫定集計値で170万トン)、これが日本近海の漁獲量を減少させている可能性がある指摘している研究者もいます。
- ・ まき網漁業は漁獲圧力が高く、我が国周辺で操業する一本釣り漁業にとって脅威となっており、まき網漁業が日本近海のかつおの漁獲量に与えている影響を明らかにする必要があると考えます。